

鳥飼まちづくりグランドデザイン住民説明会
議事録

日時：令和6年6月16日（日）

10:00～11:40

場所：第12集会所

【出席者】

■住民：35名

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	公室長	平井 貴志
	〃	副理事	森川 護
	〃 政策推進課	参事	寺田 荘史
	〃 政策推進課	主査	関本 敏晴
	〃 政策推進課	主事	関口 貴史
	総務部	理事	丹羽 和人
	〃	副理事	辻 稔秀
	生活環境部	副理事	川本 勝也
	〃 産業振興課（農政担当）	副理事	山下 聡
	〃 産業振興課（農政担当）	主幹	上田 和生
	建設部	副理事	寺田 満夫
	〃 水みどり課	課長	杉山 剛
	教育総務部 教育政策課	課長	小西 仁
大阪府	環境農林水産部 農政室 推進課	副主査	島田 遙
	北部農と緑の総合事務所 地域政策室	総括主査	馬場 とも子
一般社団 法人 大阪府 農業会議		参事	藤岡 理
	地域計画素案策定プロジェクトチーム	支援員	山野 純
北大阪 農業協同 組合	営農生活部	部長	廣瀬 昌司
	〃 営農経済部（販売担当）	担当課長	村上 智洋
	地域計画コーディネーター		林 彰彦

【議事次第】

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 資料説明
4. 質疑応答
5. 閉会

【配布資料】

- ・鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会 田園（農業とのふれあい）エリア、居住性向上エリア B
2回目
～エリアの将来予想や取組の方向性の確認及び今後の進め方（鳥飼東小学校跡地の利活用等）～
- ・摂津市鳥飼八町地区話合いの場
～地域計画策定に係る協議の場～

【質疑応答議事録】 ※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

● 質疑応答

1	住民	・広報せつつ4月号に令和6年度の市政運営の基本方針が示されており、農業委員会運営事業として地域計画策定に係る予算が43万円計上されているが、具体的な使い道を教えていただきたい。
	市	・地域計画策定に向けた話合いの場でファシリテーターを担っていただくための費用で、行政と地域をコーディネートしてもらうための委託料という形で予算を計上している。
	住民	・コーディネーターとは具体的にどのようなことをされるのか。
	市	・今後、地域の方々との話合いを進めていく中で、協議の場をとりまとめていただく役割を担ってもらう。
	住民	・鳥飼まちづくりグランドデザイン冊子のP.5に交通事情に関する鳥飼地域の特徴が書かれている。P.58に今回説明されたエリアの現状と課題の中にも、生活道路が抜け道として利用され居住者の生活の安全確保が課題とされている。このことは地域計画に関連することであり、7月12日の市長との懇談会で、市道鳥飼八町8号線の交通安全対策に関する要望書を提出するため準備している。加えて、隣接する茨木市野々宮地区では商業施設の完成が近づいており、今後更なる交通量の増加が見込まれる。鳥飼まちづくりグランドデザインでは農業とのふれあいエリアの現状と課題の中で現状を認識されている。ここは検討を進めるのではなく、早急な対策をお願いする。高齢者がウォーキング等で積極的に外出しやすい環境を作るためにも道路整備が特に重要と考えるため、喫緊の課題解決に向けた取組みを重ねてお願いする。
	市	・鳥飼八町8号線は現在、朝7時から9時まで車両通行規制がされている

		<p>が、府道鳥飼八丁富田線は対向車両と離合しにくい狭隘な道路のため、抜け道として通過交通が流入していることは承知している。市としては摂津警察署と現地立会い等を行い、状況は確認しているところである。時間帯規制があるにもかかわらず、通過車両が一定数あるということ、府道八尾茨木線までの途中狭小な区間があるということ、さらに道路沿いに駐車車両もみられるということなども認識している。ご要望の趣旨を踏まえながら、今後も引き続き警察署とも連携し、協議を進めてまいりたい。</p>
2	住民	<p>・以前は祖父の代まで田植えや畑をしていた。田畑は道路整備等のために塞いでしまうのはもったいない。これからの時代、食べていくためには自給自足が大事。農家も高齢化に伴い担い手となる後継者がいないことが問題になっている。田んぼは水の管理も大変である。農業とのふれあいとして収穫体験も大事だが、収穫するまでの工程がすごく大変である。例えば、市内ではシルバー人材センターがある。仕事をリタイアされた方や高齢の方が働かれ、公園の清掃等を行っているが、アグリカルチャーセンターのようなところで農業従事者から若い人達に色々なことを教えてもらう学びの場を作ったらいい。農業に携わってもらえる人材を確保する重要な場所となる。そのためには民間企業や JA にも協力してもらえばいい。そこでできた農作物は朝市で売ってしまわず、市の大切な資源として学校給食に使ってみて、みんなで食べていくということを大事にすることが重要であると考えている。若い人達の就農につながるよう市も補助を出す等、人材確保のために何かを考えるべきである。</p> <p>・農機具も 10 年以上使用すると管理も大変になってくる。買い替えるとなると高額な費用がかかるので、農機具をシェアするようなことに市が補助するような取組みにも力を入れてほしい。</p>
	市	<p>・新規就農を希望されている方への人材育成への支援については、大阪府でも取組みがされているように思うが、この場では詳しい情報はわからない。</p>
	住民	<p>・茨木市島にあるコープ自然派では、農業をしたいという若者を募って徳島県に連れて行き、農業を学ばせる取組みをしている。そういったアイデアも今後考えていくうえで参考にしてもらいたい。</p>
	市	<p>・先進事例が市ではどこまで可能なのか検討させていただく。一部では就農希望者に対して、技術指導をしてもらっていると思う。</p>
	住民	<p>・私のところでは個人でやっているだけであり、市は補助金を出すべきである。</p>
	市	<p>・学校給食に関しては、現在大阪府の学校給食会から食材を買い入れている。お米は大阪府内産、野菜は薬物を中心に大阪府内のものを使っている状況である。例えば、玉ねぎの収穫体験をしてそこで採れた玉ねぎを市内の全小学校の給食で使うといった取組みもしている。近くでいうと、鳥飼東小学校ではキャベツの植え付けと収穫を、鳥飼小学校では白菜の植え付けと収穫をしている。両校で採れた野菜をお互いにプレゼントし合って給食で使うといった取組みを行っている。子どもたちには身近に農業があること、自分たちで</p>

		収穫した食材が給食に使われていることを知ってもらい、農業に触れる機会を増やしていく取組みを進めていきたい。
	住民	・品数を少しでも増やす取組みをするべきではないか。
	市	・品数を増やし、また地元産のものも増やしたいと考えている。
	住民	・食材は学校給食会からのものだけで、地元産のものを給食に使えないのか。
	市	・市で調達できる部分は学校給食会の調達分を減らすという形になる。お米はJAから購入しており、地元産のものを使わせてもらっている。
3	住民	<p>・学校跡地の利活用についてのスケジュールが少し気になる。学校の統廃合に関しては、地区の代表として審議会に参加した。学校跡地利用については、審議会方式ではなく、教育委員会が主となり今後の選択肢を示していただけるのか。誰が市民としての意見を言うことができるのか。</p> <p>・八町の地域計画もスケジュールが示されたが、このような期間では収まりきらないと思う。示されたスケジュールで本当にできるのか教えてほしい。</p>
	市	<p>・今後の進め方について今回説明をしたところで、鳥飼東小学校は企業と住民の共存発展エリア、居住性向上エリアB、田園（農業とのふれあい）エリアの3エリアが関係する。それぞれのエリアで説明会を実施し、鳥飼東小学校跡地活用についての意見を聞いていく。その後、将来予想の実現に向けたワークショップをどなたでも参加できるような形で開催していく。説明会でいただいた意見を整理してからになるため、開催時期は現時点で明確に言えないが、今年度中の開催を予定している。開催日時が決まれば、ホームページや広報紙で案内するので、是非ワークショップに参加していただければと思う。</p>
	市	<p>・意見に関しては、本日の資料の最終ページにご意見シートをつけている。ワークショップにも参加していただきたいが、その前に皆さんが鳥飼東小学校の跡地をどんなふうに使っていききたいか、どのように考えているか等の声を広く集めたいと思う。そのため、ご意見シートを活用して我々に向けてどんどん発信していただきたい。</p>
	住民	<p>・ただ、跡地は結構広いので、1階を何にするとか、2階を何にするとか、運動場をどうする等色々な具体案があるので、コーディネーターがいるかもしれないが、民間企業も視野に入れた案を出すべき。よほどスピードアップしないとあと1年半では間に合わない。我々素人の意見を聞くよりも全国の跡地活用事例を参考にしながら検討するべき。個人的には、鳥飼東小学校区では高齢化による買い物難民が多いので、1階にはショッピングセンターやスーパーを誘致してほしい。</p>
	市	<p>・地域計画のスケジュールだが、資料の一番後ろに話合いのスケジュールを示しており、地域計画については、令和7年3月末までに策定予定となっている。策定のスケジュールに合わせて示しているが、4月から6月、7月から9月、10月から12月で各1回話合いの場を設ける予定である。なお、来年の1月から3月については、事務手続きを進めていくため、12月末までに</p>

		は話し合いをまとめる形で設置させていただく。まず地区の代表の方と話をさせていただき、皆さんの負担にならない程度で話し合いの場を設けさせていただければと思う。
4	住民	<p>・このグランドデザインを作られる前に八町地区で農業の現状と課題というアンケートがあり、その結果を持ってグランドデザインが作られたと想像している。そうすると農業従事者の高齢化により8割以上が60歳以上であり、10年後は非常に厳しい状況になる。後継者の問題についてもほぼほぼいない状況にある。将来において農業は縮小するし、やめたいし、見通しが立たない等の意見があり不安である。それらに対して本日の説明では、農業従事者の委託で対応したらどうかという書き方をしているが、今現在八町を見回すとSRGタカミヤの資材置き場がある。恐らく今年度も10件ぐらゐの家がそこへ貸したり売ったりすると思う。その他に新幹線の前の道路からはどんどん農地をなくして、自由に各家庭が土地を賃貸したり、売ったりしていると思うが、アンケートでわかっていながら、この八町地区を農業とのふれあいのエリアにするという発想が私にはわからない。農業委員会で決められたのなら、何を根拠にそのように決めたのか。なぜ摂津市にこの農業エリアがあるのか。田園の雰囲気味わいたいなら淀川の河川敷や安威川の河川敷もある。そこを整備したら自然豊かな摂津市になる。茨木市では商業施設エリアが出てきている。その中の一部の八町エリアがなぜ農業エリアとしての役割を果たす必要性があるのか、なぜ農業エリアが八町として摂津市として必要なのかがよくわからない。</p> <p>・八町地区で1,000平米以下の田んぼを持って農業している家が何軒あるかご存知か。極小の農業規模で今言われているような話をしたところで誰が理解できるのか。</p>
	市	<p>・鳥飼まちづくりグランドデザイン策定の経緯だが、策定委員会での議論をもとに令和4年7月に策定している。茨木市とか高槻市とかにもたくさん農地があるが、都市に近いこの摂津市に農地があることは貴重な場所である。農地をしっかりと活用していくという思いのなかで、鳥飼まちづくりグランドデザインは策定されている。</p>
	住民	<p>・八町地区が貴重な地域だと思うと発言があったが、農地であろうが何であろうが個人の資産である。摂津市にとって、どのような理由で貴重な地域と考えているか。</p>
	市	<p>・グランドデザインについては、策定委員会という場で議論の上、現在のこの形になっている。グランドデザインとは将来こうなればいいなという皆様の意見を反映した形になっており、個々の今後の具体的な展開については、ワークショップや個別の課題として議論していくものであると考えている。</p>
	市	<p>・1,000平米以下の農地を所有している農家が何軒かはこの場ではわからないが、八町地区の農地所有者が一筆で1,000平米以上の広大な農地を所有している方は少ないと思う。</p>
5	住民	<p>・話し合いのスケジュールの中で、目標地図案10年後の意向とあるが、この</p>

		地図案の内容はどういったものか。グランドデザインの4つのエリアとの関係はあるのか。
	市	・目標地図というのは、鳥飼八町地区の農地の一筆一筆で将来農地を自己耕作するや貸し出したいという形の位置付けを明確に地図上に落とし込んだもので、グランドデザインのエリアの地図とは異なる。
	住民	・より具体的になるということか。
	市	・鳥飼八町地区の一筆一筆ごとに将来10年後は自己耕作したいと思う方に担っていただきたいという形が示された地図である。
	住民	・令和4年のアンケートを見ると、米を作る畑作も含めて専業が大体20%、兼業は80%の中で、これを10年後自己耕作は現在の60%から40%ぐらいになるとのことだが、八町地区のエリアをどのように区分するのかを具体的に示してほしい。わかりやすく言えば、作るは農業のこと。学ぶは体験エリアや農機具等を展示すること。遊ぶはサツマイモやジャガイモを作りながらそこにレジャー的な意味合いを持たせること。そして、守るという部分があると思う。鳥飼西には河川防災ステーションができるが、鳥飼八町をはじめとするこの地区は一番端になるので、防災という視点の中で、作る・学ぶ・遊ぶ・守るを4つの区分に分けるとどれぐらいの面積で、どのようになるのかを含めて考える必要がある。鳥飼西が河川防災ステーションであれば、こちらは河川防災ステーションの分室としての機能をどうするのか等を具体的なものにしていかないと説明会を何回やってもなかなか進まないと思う。
	市	・エリアについては、今ここで提案している水稻エリアと野菜エリアの中でも、さらに分割したエリア区分というのも一つかと思うので、皆さんに地域計画の話合いの場で提案いただきたい。
	住民	・野菜エリアだったら農業を続けたい人がどれだけいるのか、10年後はどうか、1,000平米以下の耕作者が何軒いるのかを含めてそのエリアの部分を確認すればいい。小さな農地を続けることは可能だと思うが、大きなところでは後継者の問題がある。このエリア内では農業を続けていくといった指針のようなものがあってもいいと思う。
	市	・防災の分室の必要性については、今後ワークショップの中で色々な意見をいただきながら検討していく必要がある。例えば、鳥飼東小学校の高層階部分に防災に関する機能を付加する等も含めて、これからのワークショップで皆さんと一緒に議論して進めていきたい。
6	住民	・鳥飼東小学校の統合の話だが、先日授業参観に行ったときに、他の保護者の方が統合の話を知らないことに衝撃だった。自分自身は広報等を見ているので知っていたが、今現状で統合することを知らない保護者がいることを伝えたかった。それなら、子どもにお便りやメール機能等があるので、もう遅いかもしれないがすぐにお知らせをするべき。 ・まだ小学生になっていない未就学児をお持ちの保護者の方も統合する話を知らない方がいた。保健所等で連絡先はわかると思うので、お便りを出すかして周知した方がいい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の皆さんをメインで話し合いをしているが、市内にお店を出している中小企業や大企業の方たちとまちづくりに関しての話はしているのか。鳥飼は住居エリアだけでなく、企業も多いエリアである。 ・SRG タカミヤも田んぼを買っていると聞き、市が農業とのふれあい地域として開発しようとしているが、先手を打たれているのではないか。また、市は周りの情報をどうやって得ているのか。 ・鳥飼東小学校の跡地の利活用に関する話があるが、小学校が統合された後、次に出てくる問題が中学校だと聞いた。五中も統合となると、次は五中の跡地の利活用も考えないといけませんが、そのような話が現状全く出てきていない。 ・市内で獲れた作物が小学校の給食に提供されるという話は、とてもいいことだと思う。ただ一つ気になるのが、白く濁った水が流れているのをよく見かける。作物とかの畑に流れていくと思うが、水質はどうか。保護者としてはそういった作物が安全かどうかは気になるポイントである。もし、水質に問題があるならこれも市内に事業所を構えている企業と話をする必要があるのでないか。子どもが小学生で、給食を食べる立場の者として確認したい。
市	<ul style="list-style-type: none"> ・統合の情報については、実際に皆さんに通信やお便りの送付等はまだしておらず、遅いというお叱りです。申し訳ございません。3月の議会で議決いただき、今、統合に向けた協議を学校、PTA などの関係者で協議会を開いている。三つの部会に分けて、例えば通学、PTA、学童保育等の様々な議論をしている。 ・未就学のお子様も含めて統合についての通信の第1号案がもう間もなく完成し、皆様方にお伝えしていく。今後決まっていく内容については逐次お知らせをしていきたいと考えている。 ・中学校の統合については、まだ二中、五中に限った話ではないが、教育委員会としては、安威川以南の地域を含めて 2057 年までの児童の推計を見ながら、今後どのような学校の配置をするべきか、中学校はどのような配置をするべきかについて、今年からまた検討を始めることになっている。またそちらの結果が出たら皆様方にもお伝えする。五中という話があったが、まだ何も決まっていない。中学校の配置についても具体的に考えていく。 ・作物の安全性については、我々としては安全な野菜と食材の購入が前提となっている。白く濁った水はわからないが、食材を育てるのに使っていることはないと思う。
市	<ul style="list-style-type: none"> ・企業への発信や情報等のやり取りについては、グランドデザインの内容を商工会の協力を得て会員の皆さんに情報の発信をさせていただいている。その他にも例えば、青年会議所や鉄工会等の色々な団体の集まりの場に出向いて、グランドデザインの内容について説明をしている。このような形で企業の皆さんに対して、グランドデザインの内容の周知やアプローチを行っている状況である。

以 上